

# MAESTRO TURNOVSKÝ MEMORIAL CONCERT

空間あいサロンコンサートXI ～あなたに愛と調和と芸術を～

群馬交響楽団 永久名誉指揮者

マルティン・トゥルノフスキーを偲んで

フェードー・ルディン  
& ユリア・トゥルノフスキー

ヴァイオリンデュオリサイタル

Fedor Rudin & Julia Turnovsky Duo Violin Recital

【賛助出演】シュテファン・トゥルノフスキー

【Supporting appearance】STEPAN TURNOVSKYOVSKY



2024年2月15日(木) 15:00開演 (14:30開場)

Thu 15th February, 2024 15:00 Start (14:30 Open) at Takasaki City Theatre Concert Hall

高崎芸術劇場 音楽ホール

主催：株式会社空間あい 共催：群馬日唄交流協会 特別協賛：株式会社藤田ビジネスプロモーター、株式会社清水、株式会社しみづ農園  
後援：群馬交響楽団、群馬県、高崎市、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA、ラジオ高崎



## ご挨拶

Sehr geehrtes Publikum,

im Namen meiner Familie und mir möchte ich Ihnen herzlich für Ihre Anwesenheit beim heutigen Gedenkkonzert meines Vaters danken. Dieses Konzert war bereits vor zwei Jahren geplant, musste jedoch aufgrund der Corona-Pandemie abgesagt werden.

Ehrlich gesagt hatte ich die Hoffnung aufgegeben, dass es je stattfinden würde. Heute jedoch geht mein langgehegter Wunsch, dieses Konzert mit meiner Tochter Julia und meinem Schwiegersohn Fedor zu geben, in Erfüllung. Das erfüllt mich mit Glück und Ehre.

Mein Vater besuchte über fast 20 Jahre hinweg oft die Stadt Takasaki zusammen mit meiner Mutter als Gastdirigent des Gunma Symphony Orchestra. Er erzählte immer mit Freude von seiner Arbeit mit dem Orchester und den Erlebnissen, die er hier in Takasaki hatte. Meine Eltern waren dankbar für die herzliche Aufnahme durch die Orchestermusiker, den Betriebsrat, alle Beteiligten und das Publikum. Sie fühlten sich hier so wohl wie in ihrer Heimat.

Als besonderes Zeichen der Verbundenheit werde ich heute eine Komposition von Willson Osborne vortragen – eine Rhapsodie für Solofagott. Ich empfinde sie als metaphysisch, sie entführt uns aus der realistischen Welt und trägt uns in den Kosmos. Ich hoffe, diese Musik würde auch meinem Vater gefallen und ich freue mich, wenn Sie diesen Moment gemeinsam mit mir teilen.

本日は、お忙しい中、父の追悼コンサートにお越し頂き、どうもありがとうございます。

家族共々、厚くお礼を申し上げます。

このコンサートは、2年前に予定されていましたが、折悪しくコロナのパンデミックを受け、中止せざるおえなくなっていました。もう実現することはないと諦めていましたが、幸い、今日こうして娘ユリア、娘婿フェードーと一緒に実現する運びとなりましたことは、大変光栄なことであり、実に感無量の思いであります。

私の父は、20年近くに渡り、群馬交響楽団の客演指揮者として、幾度となく母を伴いこの街を訪れていましたが、高崎で過ごした日々のは、いつもうれしそうに語り、生涯忘れることのない、掛け替えのない思い出ができたことに、心から感謝しておりました。

オーケストラ団員の方々、事務局の方々、そして、コンサートへお出でくださった聴衆の皆様には、大変暖かく迎えて頂き、まるで自分の故郷に帰ってきたような気がしたとも申しておりました。

今日は、私から父への想いを語り問いかけ、捧げる曲として、オズボーンのラブソディーを演奏致します。

この曲は、ファゴット独奏のために書かれた作品ですが、何かメタフィジカルな、現世から宇宙に紛れ込んでいくような雰囲気がある作品です。父が、この曲を聴いてどのように感じるかは、定かではありませんが、今日、聴いていてくださる皆様に、私と同じ空間で父のことを偲んで頂けたら、これ以上嬉しいことはありません。

シュテファン・トゥルノフスキー

# Profile

## フェードー・ルディン (ヴァイオリン) Fedor Rudin, Violin



©Neda Navaee

2018年、パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール第2位を受賞。2019年、イヴリー・ギトリス賞(パリ)に輝く。著名なアバンギャルド作曲家エディソン・デニソフの孫としてモスクワで生まれ、パリで育つ。ケルン音楽大学でザハール・ブロンに、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学でピエール・アモイヤルに、グラーツ音楽大学大学院でボリス・クシュニールに師事。2019年～2021年、ウィーン国立劇場&ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを務め、リッカルド・ムーティ、ズービン・メータ、クリスティアン・ティーレマン、ジョン・ウィリアムズらのタクトでオーケストラ活動を行った。ソリストとしては、これまでに、ベルリン放送交響楽団、南西ドイツ放送交響楽団、ノルウェー放送交響楽団、プラハ室内管弦楽団などと共演。室内楽では、ピアニストのボリス・クスネツォフやイゴール・レヴィット、チェロ奏者のイヴァン・カリズナ、ユリア・ハーゲン、またパヴェル・ハース四重奏団やシグナム・サクソフォン四重奏団など著名なパートナーとザルツブルク音楽祭、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭など数多くの音楽祭に出演している。また、ヴァイオリニストとしての活動に並行し、ウィーン国立音楽大学で指揮を学び、これまでに、ウィーン放送交響楽団、ジョージア・国立室内管弦楽団、イエナフィルハーモニー管弦楽団などのオーケストラを指揮している。2023年よりウィーン国立音楽大学にてオーケストラ教育の教授として後進の指導にあたっている。

使用楽器は、カナダに拠点を置く Groupe Canimex から貸与された1712年製アントニオ・ストラディバリ“ex-Viotti”

## ユリア・トゥルノフスキー (ヴァイオリン&ヴィオラ) Julia Turnovsky, Violin & Viola



ウィーンで音楽家の家系に生まれ、ウィーン・コンセルヴァトリウム音楽大学、グラーツ音楽大学でボリス・クシュニールに師事。ダヴィッド・オイストラフ国際コンクール、カール・フレッシュ国際コンクール、ヨハネス・ブラームス国際コンクールなどでの受賞歴を持つユリア・トゥルノフスキーは、13歳で南西ドイツフィルハーモニーと共演し、これまでにゲッティンゲン交響楽団、カメラータ・ザルツブルク、プラハ室内管弦楽団、ロストック北ドイツフィルハーモニー管弦楽団、スロバキア・シンフォニエッタ、ソリイスト・ヨーロピアン・ルクセンブルク、日本センチュリー交響楽団、群馬交響楽団、など数多くのオーケストラと共演。これまでにプラハの春音楽祭、グシュタード・メニューイン音楽祭、ジヴェルニー室内音楽祭、ハイドン音楽祭、メクレンブルク・フォアポンメルン音楽祭など数々の音楽祭に招かれ、ソリスト並びに室内楽の活動も意欲的に行なっている。

ジュリアン・ラクリン、ダニエル・ホープ、エットーレ・カウザ、ジャック・アモン、ユリア・ハーゲン、チェン・イバイ、アンドレアス・オッテンザマー、マティアス・ショルンなど著名な演奏家達と共演している。

使用楽器は、ジョヴァンニ・バッティスタ・グアダニーニ(オーストリア銀行より貸与)

## シュテファン・トゥルノフスキー (ファゴット) Stepan Turnovsky, Fagott

【賛助出演】



1959年、プラハで音楽一家のもとに生まれ、ウィーンで育つ。ウィーン国立音楽大学でカール・エルベルガーに師事。在学中の1978年、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、1988年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。1985年より首席ファゴット奏者として、ヘルベルト・フォン・カラヤン、レオナード・バーンスタイン、カール・ベーム、カルロス・クライバー、ゲオルグ・ショルティーなど多くの指揮者の元で活躍する。室内楽の演奏活動も積極的に行い、ウィーン・八重奏団、ウィーン・ヴィルトゥオーゼンとは、ザルツブルク音楽祭、シューベルトティアード音楽祭など著名な音楽祭に出演、数々のCD録音も残している。また、ニコラウス・アーノンクールが率いるコンツェントゥス・ムジクスに招かれバロックファゴット奏者としてコンサートツアーに参加する。ソリストとしては、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会、ヨーロッパ演奏旅行におきクリスティアン・ティーレマンと共演する他、ウィーン室内管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団などと共演。2001年からは、ウィーン国立音楽大学の教授を務めている。

# Program

J.M.ルクレール / 2つのヴァイオリンのためのソナタ 作品3-2

J.M.Leclair (1697-1764) Sonata for two violins in A minor

W.A.モーツァルト / ヴァイオリンとヴィオラのためのデュオ 第1番ト長調 KV.423

W.A. Mozart (1756-1791): Duo for Violin and Viola No.1 in G Major, KV 423

C.P.シュターミッツ / 2つのヴァイオリンとバスーンのためのトリオ 第2番ト長調 作品14

C.P. Stamitz (1745-1801): Trio No. 2 in G Major for 2 Violins and Bassoon, op. 14

—— 休憩 Intermission 20分 (minutes) ——

W.オズボーン / バスーンのための狂詩曲 ～マエストロ・トゥルノフスキーに捧ぐ～

W.Osborne (1906-1979) Rhapsody for bassoon solo ~Dedicating Maestro Turnovsky~

E.イザイ / 2つのヴァイオリンのためのソナタ イ短調

Eugène Ysaÿe (1858-1931): Sonata for two violins in A minor

C.サン＝サーンス / 死の舞踏 作品40 編曲：ブテリス／デュヴァルによるデュオ版

C. Saint-Saëns (1835-1921): Danse Macabre, op.40 - arr. Boutellis/Duval for 2 violins

# Program Notes 小味渕彦之 (音楽学、音楽評論)

群馬交響楽団永久名誉指揮者であるマルティン・トゥルノフスキー(1928-2021)の追悼演奏会。孫のユリア・トゥルノフスキー(ヴァイオリン)とユリアの夫であるフェードー・ルディン(元ウィーンフィルコンサートマスター、ウィーン国立音大教授)のヴァイオリン・デュオのコンサートです。マルティンの息子であるシュテファン・トゥルノフスキー(ウィーンフィルファゴット奏者、ウィーン国立音大教授)が賛助出演します。

J.M.ルクレール / 2つのヴァイオリンのためのソナタ 作品3-2

ジャン＝マリ・ルクレール(1697-1764)はフランスの作曲家、ヴァイオリン奏者で、舞踏家としても活躍しました。伝統的なフランス・ヴァイオリン楽派の祖とされています。《2つのヴァイオリンのためのソナタ》は各6曲ずつ2巻の曲集が残されました。本日演奏されるのは、1730年(33歳)に出版された第1巻(作品3)の《第2番 イ長調》です。

3つの楽章で構成。〈第1楽章〉はさわやかに2つのヴァイオリンが奏でる音色が絡み合います。〈第2楽章〉は丁寧に響きが積み重ねられました。〈第3楽章〉は小気味よく駆け抜けます。いずれの楽章でもヴァイオリン同士が対話するように綴られています。

W.A.モーツァルト / ヴァイオリンとヴィオラのためのデュオ 第1番ト長調 KV.423

1783年(27歳)の7月から10月まで、新婚のモーツァルトが妻のコンスタンツェを伴ってウィーンからザルツブルクに里帰りした際の作品。かつて宮廷音楽家として同僚だったミヒャエル・ハイドン(ヨーゼフの弟)の窮地を救った曲でした。この《ト長調 KV.423》と《変ロ長調 KV.424》の2曲の二重奏曲は、病気のために作曲ができなかったミヒャエル・ハイドンに代わってモーツァルトが書き上げたもの。大司教からの依頼があって、どうしても仕上げなければならなかった曲でした。友情の証として、ミヒャエルは生涯にわたってこの2曲を大切にしたいと言われていました。

3つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉はカノン風に組み合わせられる快活な歩みの音楽。〈第2楽章〉はゆっくりとしたテンポで、ヴァイオリンとヴィオラが役割を交替しつつ、歌を奏でていきます。〈第3楽章〉は軽快で牧歌的とも言える主題が奏でられる中で、緊密に響きの構築が形成されます。

## C.P.シュターミッツ／2つのヴァイオリンとバスーンのためのトリオ 第2番 ト長調 作品14-2

シュターミッツ家はボヘミアの音楽家一族で、マンハイム楽派の祖と言われるヨハンの長男がカール・シュターミッツ(1745-1801)です。弟のアントンも高名な音楽家として知られ、兄弟ともヴァイオリニスト、作曲家として活躍しました。

カール・フィリップ・シュターミッツがロンドンに到着した直後である1777年(32歳)春に当地で出版されました。当時から盛んに演奏会が開かれていたこの大都市にシュターミッツは1779年まで滞在し、様々な演奏活動を繰り広げました。

フルート、ヴァイオリン、チェロ(または2つのヴァイオリンとチェロ)という編成が想定されていますが、チェロはいわば通奏低音楽器としての役割を持っていて、本日はバスーンがこれを担います。

2つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉は軽やかな歩みで2つのヴァイオリンがメロディを奏で、親和力の強いアンサンブルを形作ります。〈第2楽章〉は優雅なメヌエットであり、バスーンの速いパッセージも盛り込まれて多彩な表情を聴かせます。

## W.オズボーン／バスーンのための狂詩曲

ウィルソン・オズボーン(1906-1979)はアメリカの作曲家。イエール大学でパウル・ヒンデミットに師事しました。それだけが理由でもないでしょうが、師と同じく新古典主義的な作風を持っています。

この《狂詩曲(ラブソディ)》はオズボーンの作品で最もよく知られたもの。他の楽器でも演奏されますが、本日のようにバスーン(ファゴット)のものがオリジナルです。1952年(46歳)の作曲。楽器の特性を活かして、低音の広がりのある響きから高音のおどけた表情までが、鮮やかに展開されます。

シュテファン・トゥルノフスキーはこの作品を「亡き父を思い、問いかけるような神秘的な作品」と感じており、「今回の演奏を父に捧げる」としています。

## E.イザイ／2つのヴァイオリンのためのソナタ イ短調

ベルギー生まれのウジューヌ・イザイ(1858-1931)は、フランコ・ベルギー派という流派を代表するヴァイオリン奏者で、パリで同時代の作曲家たちと親交を結び、ドビュッシーやフランクから作品を捧げられました。彼のヴァイオリンの腕前は相当なもので、特に音色の豊かさでは群を抜いていたそうです。6曲の《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ集》が代表作として知られます。

この《2つのヴァイオリンのためのソナタ》は、1915年にベルギーのエリザベト王妃のために書かれた作品ですが、イザイの生前には公にされず、遺作となった作品です。王妃はイザイにヴァイオリンを習っていたのですが、この作品が実際に演奏されたのかどうかはわかっていません。師弟共演が叶ったとしたら、王妃はどちらのパートを弾いたとしても、相当な腕前の持ち主だったわけです。

3つの楽章で構成。30分を超える大作で、何ともロマンティックな響きを持っています。〈第1楽章〉は密度の高い響きが冒頭から形作られます。ゆっくりとしたテンポの序奏が精妙に奏でられた後、自然な推移で主部に連なります。多面性を持った音楽が続いていて、激しさも聴かせつつ、抒情性も盛り込んだ内容です。〈第2楽章〉は絡み合うヴァイオリンのメロディがほの暗い味わいを染み渡させます。弦を指ではじくピッツィカート奏法が効果的に使われます。〈第3楽章〉はメロディの美しさを確保した上で繰り出される超絶技巧の連発に、舌を巻く思いです。技巧的な部分がテクニクにひけらかしにならずに、音楽性を確保している点で、《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ集》とも共通したエッセンスを感じることができます。演奏機会は稀な作品ですので、二人の名手のアンサンブルを心ゆくまでご堪能ください。

## C.サン＝サーンス／死の舞踏 作品40 編曲：ブテリス／デュヴァルによるデュオ版

カミーユ・サン＝サーンス(1835-1921)は近代フランス音楽の基礎を築いた作曲家で、オルガニストとしても活躍しました。メンデルスゾーン同様、幼年期から才能を発揮し、膨大な数の作品を残しました。豊かなメロディ・ラインが次から次へと飛び出します。

1874年(39歳)の作曲。1847年に書かれたリストの同名の作品(1862年改訂)がサン＝サーンスの念頭にあって考えてよいでしょう。「死の舞踏」は絵画のモチーフとして中世以来の伝統的なものでした。ヨーロッパの中世は、疫病や戦禍によって死が身近な存在であり、恐怖で狂乱した人々が踊る姿(しばしば骸骨で!)が描かれています。

冒頭に真夜中の12時が告げられます。続いて登場するよく知られた主題のメロディは、死神をイメージした不気味で生々しいもの。その後は大乱痴気が繰り広げられるのですが、一番鶏の鳴き声を境に静かになり、最後は「おしまい」と言っているように物語の幕が下ります。この2つのヴァイオリンのためのデュオ版では、原曲の表情を保ったまま、様々な技巧を盛り込んだ表現が次々に飛び出してきて、聴きごたえ満点です。





マルティン・トゥルノフスキー（群馬交響楽団永久名誉指揮者）

1928年、ブラハ生まれ。ブラハ音楽アカデミーでカレル・アンチェルに師事、その後、親交のあったジョージ・セルに薫陶を受ける。

1958年には、フランスのプザンソン国際指揮者コンクールで第1位優勝。60年代末迄には、多くのチェコのオーケストラとの公演や客演により、チェコ屈指の指揮者としての評価を得る。ドレスデン国立歌劇場音楽監督を二期務め、同歌劇場管弦楽団の音楽総監督を努めたが、1968年8月、ソ連軍の侵入後、オーストリアへ移住。75年、オスロの国立ノルウェー・オペラ劇場の音楽監督に、79年から82年にはボン歌劇場の音楽監督を務めた。ウィーン交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、

ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ベルリン・ドイツ・オペラなど数々のオーケストラに客演している

日本では、78年に東京都交響楽団と京都市交響楽団に、84年には日本フィルハーモニー交響楽団、95年には群馬交響楽団に客演している。1992年、ビロード革命後の故国に戻り、92年から96年までブラハ交響楽団の首席指揮者を努めた。98年4月より群響首席客演指揮者に就任し、2017年7月より名誉指揮者。当時の群馬交響楽団音楽監督高関健と群響の一時代を築き、数々の名演を残している。

2021年5月19日、現地時間午前4時10分、ウィーン郊外にあるラクセンブルグの病院で逝去。

群馬交響楽団

群響定期演奏会はすべて群馬音楽センター ※群響初演

- 第329回定期演奏会(1995年6月29日)  
スメタナ/歌劇「売られた花嫁」序曲  
スメタナ/  
交響詩「わが祖国」より〈ヴィシエフラト〉  
〈モルダウ(ヴルタヴァ)〉、〈ボヘミアの森と草原から〉  
ドヴォルジャーク/  
交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」



- 第3回東毛定期演奏会(太田/1997年10月23日)
- 第350回定期演奏会(1997年10月24日)  
ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲  
マルティナー/交響曲 第4番 ※  
ベートーヴェン/交響曲 第5番 八短調 作品67



- 音楽のひろば(伊勢崎/1999年2月19日)  
バス:田島達也  
ロッシーニ/歌劇「セミラーミデ」序曲  
モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より「カタログの歌」  
ヴェルディ/歌劇「ドン・カルロ」より「王衣の中でひとり淋しく眠ろう」  
ワーグナー/  
歌劇「さまよえるオランダ人」よりオランダ人のモノローグ「期日は切れた」  
歌劇「さまよえるオランダ人」より序曲  
チャイコフスキー/交響曲第6番口短調「悲愴」



- 第362回定期演奏会(1999年2月27日)
- 第6回定期演奏会(太田/1999年2月28日)  
ヴァイオリン:石川 静  
ヤナーチェク/組曲「利口な女狐の物語」※  
モーツァルト/ヴァイオリン 協奏曲 第5番「トルコ風」  
ドボルジャーク/交響曲 第8番 卜長調

- 第7回定期演奏会(桐生/1999年11月18日)
- 第369回定期演奏会(1999年11月20日)  
チェロ:向山佳絵子  
モーツァルト/交響曲 第35番 二長調 K.385《ハフナー》  
チャイコフスキー/ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 作品33  
ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲  
ラヴェル/ダスニフとクロエ 第2組曲

- 第24回まえばし市民名曲コンサート(1999年11月25日)  
ピアノ:児玉桃  
ドヴォルジャーク/交響曲「野鳩」作品110 B. 198 ※  
モーツァルト/ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 K. 414  
メンデルスゾーン/交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

- 音楽のひろば 富岡第九(1999年11月28日)  
ソプラノ:三縄みどり アルト:秋葉京子  
テノール:川上洋司 バス:多田羅迪夫  
ベートーヴェン/  
序曲「コリアン」、交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付」

- 東京公演(まるごとぐんま)(東京芸術劇場/2000年10月24日)  
ヴァイオリン:漆原朝子  
スメタナ/交響詩「モルダウ」  
チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲二長調  
ドヴォルジャーク/交響曲 第8番 卜長調 作品88



- 第9回東毛定期演奏会(太田/2000年11月24日)
- 第378回定期演奏会(2000年11月25日)  
チェロ:モニカ・レスコヴァール  
ドヴォルジャーク/伝説 作品59-1,2,3 B.122 ※  
ドヴォルジャーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104 B.191  
シヨスタコーヴィチ/交響曲 第1番 へ短調 作品10

- 第26回 まえばし市民名曲コンサート(2000年11月29日)  
チェロ:モニカ・レスコヴァール  
ブラームス/悲劇的序曲  
サン＝サーンス/チェロ協奏曲 第1番 作品33  
ブルッフ/コロニドライ  
ストラヴィンスキー/バレエ音楽《火の鳥》1919版

- 第382回定期演奏会(2001年5月10日)  
ソリスト:横山幸雄  
ベートーヴェン/序曲《レオノーレ》第3番 作品72a  
ラフマニノフ/パガニーニの主題による狂詩曲  
ムソルグスキー(ラヴェル編曲)/組曲《展覧会の絵》

- 桐生市市制施行80周年記念演奏会(2001年5月13日)  
ソリスト:石川静 野原みどり  
桐生市歌  
モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲第5番「トルコ風」  
チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番  
ムソルグスキー(ラヴェル編曲)/組曲《展覧会の絵》

- 第27回まえばし市民名曲コンサート(2001年5月18日)  
ヴァイオリン:神谷美千子  
ドビュッシー/海 一3つの交響的スケッチー  
ドヴォルジャーク/ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53  
プロコフィエフ/バレエ音楽《ロメオとジュリエット》より

- 第13回東毛定期演奏会(桐生/2002年10月18日)
- 第395回定期演奏会(2002年10月19日)  
モーツァルト/歌劇《ドン・ジョヴァンニ》序曲K.527  
ベートーヴェン/交響曲 第4番 変ロ長調 作品60  
ヤナーチェク/シンフォニエッタ ※

- **東京公演(まるごとぐんま)** (東京芸術劇場/2002年10月24日)  
マルティヌー/交響曲 第4番  
ドヴォルジャーク/交響曲 第7番 二短調 作品70

- **第398回定期演奏会** (2003年2月15日)
- **第14回東毛定期演奏会** (太田/2003年2月16日)  
マルティヌー/交響曲 第6番《交響的幻想曲》※  
チャイコフスキー/交響曲 第6番 口短調 作品74《悲愴》

- **第16回東毛定期演奏会** (2004年3月21日)
- **第408回定期演奏会** (2004年3月20日)  
モーツァルト/交響曲第38番二長調 K.504《プラハ》  
ブルックナー/交響曲第7番ホ長調WAB.107

- **第412回定期演奏会** (2004年9月26日)  
ソプラノ:ズデナ・クロウヴァー  
アルト:マルタ・ベニヤチコヴァー  
テノール:マリアン・ヴォイトコ パス:ズデニク・ブレフ  
合唱:群馬交響楽団合唱団 コーラスマスター:阿部純  
ドヴォルジャーク/スターバト・マーテル(悲しみの聖母)作品58 ※



- **第19回東毛定期演奏会** (2005年11月25日)
- **第423回定期演奏会** (2005年11月26日)  
フルート:パヴェル・フォルティン ハープ:カテリーナ・エングリコヴァ  
ワーグナー/ジークフリートの牧歌  
モーツァルト/フルートとハープのための協奏曲八長調  
ラヴェル/序奏とアレグロ  
ストラヴィンスキー/組曲《火の鳥》(1919年版)

- **第36回まえばし市民名曲コンサート**  
(前橋市民文化会館 /2005年12月3日)  
親子三代による トゥルノフスキー・ファミリーコンサート  
ファゴット:シュテパン・トゥルノフスキー  
(ウィーン・フィル交響楽団首席ファゴット奏者)  
ヴァイオリン:ユリア・トゥルノフスキー  
モーツァルト/  
歌劇《後宮からの誘拐》序曲 K.384、  
ファゴット協奏曲 変ロ長調 K.191  
サン=サーンス/  
ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61  
ドヴォルジャーク/  
交響曲9番 ホ短調《新世界より》作品95



- **第431回定期演奏会** (2006年10月21日)
- **第21回東毛定期演奏会** (2006年10月22日)  
ドヴォルジャーク/序曲 《自然のなかで》作品91 ※  
ヤナーチェク/狂詩曲《タラス・ブーリバ》※  
ブラームス/交響曲 第1番 八短調 作品68



- **第23回東毛定期演奏会** (太田市民会館/2007年11月16日)
- **第441回定期演奏会** (2007年11月17日)  
バリトン:マルクス・フォルバート  
シュトラウス/交響詩《ドン・ファン》作品20  
マーラー/さすらう若人の歌  
ドヴォルジャーク/交響曲 第5番 へ長調 作品76

- **第449回定期演奏会** (2008年10月26日)  
ソプラノ:ズデナ・クロウボヴァー アルト:ヤナ・スィーコロヴァー  
テノール:トマーシュ・チェルニー バリトン:ロアン・ヴォシエリ  
合唱:群馬交響楽団合唱団 合唱指揮:阿部純  
ドヴォルジャーク/『レクイエム』作品89

- **第453回定期演奏会** (2009年3月21日)
- **すみだトリフォニー地方都市オーケストラフェスティバル** (2009年3月22日)  
ピアノ:ヤロスラヴァ・ピエホチョヴァー  
チャイコフスキー/幻想的序曲「ロメオとジュリエット」  
プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26  
ドビュッシー/海

- **第459回定期演奏会** (2009年11月21日)
- **第28回桐生東毛定期演奏会** (2009年11月22日)  
チェロ:フランシス・グトン  
ドヴォルジャーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104  
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

- **第468回定期演奏会** (2010年11月20日)  
モーツァルト/  
「皇帝ティート(ティトゥス)の慈悲」序曲  
ハイドン/交響曲 第104番 二長調「ロンドン」  
ドヴォルジャーク/  
スラブ舞曲集 第1集 作品46 第1番～第8番  
第1番八長調・第2番 ホ短調・第3番 変イ長調・  
第4番へ長調・第5番 イ長調・第6番 二長調・  
第7番八短調・第8番 ト短調  
(En.)スラブ舞曲 第1番 作品72-1  
最後の出演となる



- **第494回定期演奏会** (2013年10月26日)  
スメタナ/わが祖国全曲  
体調不良のために、来日できず終わり、当時の音楽監督大友直人が指揮

### 群馬交響楽団以外・プラハ交響楽団日本公演

#### 《京都市交響楽団》

- **第205回定期演奏会** (京都会館/1978年5月19日)  
ヴァイオリン:尾花清光  
モーツァルト/交響曲 第40番  
プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番「新世界より」

#### 《東京都交響楽団》

- **第107回定期演奏会** (東京文化会館/1978年5月26日)  
ピアノ:アリシア・テ・ラローチャ  
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58  
ブルックナー/  
交響曲 第3番 二短調 WAB103 (ノヴァーク版)



- **第108回定期演奏会** (東京文化会館/1978年6月5日)  
ピアノ:荒 憲一  
ハイドン/交響曲 第82番 八長調 Hob.I:82 《熊》  
グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16  
ヤナーチェク/狂詩曲《タラス・ブーリバ》

- **第108回 ファミリーコンサート** (杉並公会堂/1978年6月14日)  
フルート:河野俊子  
プロコフィエフ/  
パレエ《ロメオとジュリエット》組曲第1番、  
第2番より「モンタギュー家とキャピュレット家」、「少女ジュリエット」、「踊り」、  
「ジュリエットの墓の前のロメオ」、「タイボルトの死」  
モーツァルト/フルート協奏曲 第1番 ト長調 K.313(285c)  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 口短調 作品95 B.178 《新世界より》

- **第109回 ファミリーコンサート** (調布市民福祉会館/1978年6月15日)  
ピアノ:渡辺康雄  
ベートーヴェン/序曲《コリオラン》八短調 作品62  
チャイコフスキー/ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 口短調 作品95 B.178 《新世界より》

#### 《日本フィルハーモニー交響楽団》

- **東京文化会館** (1984年6月22日)  
ドヴォルジャーク/「スターバト・マーテル」作品58  
ソプラノ:豊田喜代美 アルト:伊原直子  
テノール:佐々木正光 パス:池田直樹  
日本フィルハーモニー協会合唱団

- **第364回定期演奏会** (東京文化会館/1984年6月26日)  
スメタナ/  
連作交響詩《わが祖国》より、ヴィシエフランド、モルダウ、  
ボヘミアの森と草原から  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 口短調 作品95《新世界より》

## 《ブラハ交響楽団日本公演》

- ザ・シンフォニーホール(1993年11月21日)  
ドヴォルジャーク:交響曲 第8番 卜長調 作品88「イギリス」  
ドヴォルジャーク:交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」
- 宮崎県立芸術劇場(1993年11月22日)  
ヴァイオリン:千住真理子  
スメタナ/交響詩「わが祖国」よりモルダウ  
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」
- 東京芸術劇場(1993年11月24日)  
ヴァイオリン:イワン・ジェナティエ  
スメタナ/交響詩「わが祖国」よりモルダウ  
チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」
- 小杉町文化ホール(ラポール)(1993年11月27日)  
チェロ:上村昇  
ドヴォルジャーク/序曲「謝肉祭」  
ドヴォルジャーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」
- 宇都宮市文化会館(1993年11月29日)  
ヴァイオリン/千住真理子  
スメタナ/交響詩「わが祖国」よりモルダウ  
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」
- 愛知県立芸術劇場(1993年12月1日)  
ヴァイオリン:千住真理子  
ドヴォルジャーク/序曲「謝肉祭」  
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」
- 八幡市文化センター(京都府)(1993年12月2日)  
チェロ:上村昇  
スメタナ/交響詩「わが祖国」よりモルダウ  
ドヴォルジャーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」
- 東京芸術劇場(1993年12月3日)  
ピアノ:ヤン・シモン  
ドヴォルジャーク/序曲「謝肉祭」  
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第4番 卜長調 作品58  
マーラー/交響曲 第1番「巨人」
- 喜多方ブラザ文化センター(1993年12月4日)  
ヴァイオリン:千住真理子  
スメタナ/交響詩「わが祖国」よりモルダウ  
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」

- 東京芸術劇場(1993年12月6日)  
チェロ:上村昇  
ドヴォルジャーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104  
ドヴォルジャーク/交響曲 第8番 卜長調 作品88「イギリス」
- 聖徳学園 川並記念講堂(1993年12月8日)  
ヴァイオリン:千住真理子  
ドヴォルジャーク/序曲「謝肉祭」  
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ドヴォルジャーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界より」

## 《大阪センチュリー交響楽団》

- 第107回定期演奏会(シンフォニーホール/2005年12月16日)  
ヴァイオリン:ユリア・トゥルノフスキー  
スメタナ/売られた花嫁序曲、  
サン＝サーンス/ヴァイオリン協奏曲 第3番  
ドヴォルジャーク/交響曲第7番

## 《名古屋フィルハーモニー交響楽団》

- 第26回 名古屋銀行コンサート(名古屋市民会館/2007年11月6日)  
ヴァイオリン:漆原朝子  
ブラームス/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77  
ブラームス/交響曲 第1番 八短調 作品68

## 《札幌交響楽団》

- 第512回定期演奏会(札幌コンサートホール/2008年10月10日、11日)  
チェロ/ヨハネス・モーザー  
ドヴォルジャーク/交響詩「野ばと」作品110  
シューマン/チェロ協奏曲 イ短調 作品129  
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

## 《仙台フィルハーモニー管弦楽団》

- 第232回定期演奏会  
(仙台市青年文化センター・コンサートホール/2008年10月17日、18日)  
シューベルト/交響曲 第7番 口短調 D.759『未完成』  
マーラー/『アダージェット』〜交響曲 第5番 より  
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

## 《神奈川フィルハーモニー管弦楽団》

- 第258回定期演奏会(横浜みなとみらいホール/2009年11月14日)  
チェロ:フランシス・グトン  
ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲  
ドヴォルジャーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104  
マルティヌー/交響曲 第4番

## 《東京交響楽団》

- 名曲全集 第61回(ミューザ川崎シンフォニーホール/2010年11月14日)  
ピアノ:迫 昭嘉  
R.シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」  
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第3番 八短調 作品37  
ドビュッシー/交響詩「海」



～追悼～ 群馬交響楽団永久名誉指揮者 マルティン・トゥルノフスキー  
本日の公演を実現するにあたり、匿名を含めてご協力いただき、感謝申し上げます。

糸井商事 株式会社 群馬日興交流協会 株式会社 原人社 劇団ザ・マルク・シアター  
株式会社 清水 株式会社 しみづ農園 医療法人 社団美心会 城代 悠子 金子 香代子  
高橋 勇夫 角貝 宏明 中島 裕美 中山 和美 羽鳥 一夫 株式会社 フェドラ  
株式会社 藤田ビジネスプロモーター 水上 勝之 宮崎 比呂志 中澤 照雄 三国 富美子

(敬称略・順不同)

演奏会終了後、1階シアターカフェ&レストランにて、18時より「懇ぶ会」(会費制)を開催します。  
出演者による演奏もごさいます。参加希望の方は、若干の余裕がありますので、受付にて申し込みください。



あなたに愛と調和と芸術を  
株式会社 空間あい

株式会社 空間あい 代表 新井 淨  
〒370-0087 高崎市楽間町280番地14 Phone 090-1815-4608 Fax 027-344-1582  
【E-mail】info@kuukanai.com 【HP】https://kuukanai.com 【ONLINE SHOP】https://shop.kuukanai.com